

2022 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

宮澤 慶行 (群馬大)

ニューオーリンズで開催されたAUA 2022に参加した後、5月中旬から6月初旬にかけてニューヨークにあるコーネル大学でJUA/AUA Academic Exchange Programに参加してきました。コーネル大学附属病院はニューヨーク、マンハッタン島の中でも比較的高級な住宅地であるアッパーイーストサイド、イーストリバー沿いに立地しており、周囲はとても落ち着いた雰囲気でありました。一緒に参加した自治医大の安東先生と病院近くのアパートの2階で過ごしプログラムに参加しました。AirbnbでAUAの担当の方が用意してくれましたが1泊50,000円ほど、リビング、2ベッドルームの部屋でした。家賃、物価の高いニューヨークに驚きました。

コーネル大学附属病院での研修は主に手術の見学を中心に組んでいただき、朝から夕方まで多くの手術を見学しました。私は数年前にJUA/AUA主催のUCサンディエゴの泌尿器科の手術見学プログラムに参加したこともあったのでなんとなくアメリカの手術室のイメージあったのですが、コーネル大学はとても歴史が長い病院で年季の入った作りでまた一味違った趣がありました。手術室一つ一つもアメリカなので大きいのかな、と思いきやかなり狭く、日本でダビンチ手術をする部屋に比べますと半分くらいの広さで驚きました。その代わりに、複数のフロアに手術室があり、一つのフロアの広さは倍ほどあり、部屋数は倍ほどですので手術室総数は断然多かった

です。ダビンチはXiでSPはありませんでしたが各部屋に1台あるような状況で、尋ねますと「たくさんだよ、たくさん」と返答頂きました。RARP, RAPN, RARCなど泌尿器悪性腫瘍の手術はほぼ毎日のように1日2~3件ペースで行われており、多くの手術を見学しました。特にRARPでは多くの症例で両側神経温存をしており、二人のトップ、Scherr先生、Hu先生ともに工夫され手術をしていました(Fig. 1, 2)。Hu先生が膀胱尿道吻合時に両手アームで針を持って運針する姿は二刀流を想起させ、日本では見たことがなかったので新鮮でした。また、悪性腫瘍手術だけではなく男性不妊症関連の手術も多く行われており、micro TESEや静脈瘤の手術なども見学しました。研修の中ではニュージャージー州にあるクリニックで行われるUroliftを用いたBPH手術を見学に行く機会を得ました。アメリカの開業医の先生はイメージが全然なかったのですが、複数の先生が共同でやっているというクリニックで、午前中に5例のUrolift症例を見学させて頂きました。全て外来手術で、1件あたり本当に10分もかからず終わっていくため驚きました。

見学終了後には指導医の先生に食事に連れて行って頂いたりしました。特にSchlegel先生に連れて行って頂いたイタリア料理屋でご馳走になったステーキは絶品でありました。日本で食べるサシが多い肉とは全く違いましたし、ニューヨークで有名な熟成肉ステーキともまた違



Fig. 1 Douglas S. Scherr 先生と外来オフィスで撮影



Fig. 2 Jim Hu 先生とオフィスエントランスで撮影



Fig. 3 セントラルパークを散策

うステーキで、美味でした。他、どこに連れて行って頂いても美味しい料理を楽しむことができました。ニューヨークの物価高、同時の円安も相まって食費は非常に高かったですが払えば相応、ないしそれ以上に美味しい、という感想でした。休日には多くある博物館や、マンハッタン観光も楽しむことができました。普段テレビ東京の経済ニュース番組をよく見るせいか、モーニングサテライトでチラチラ映るセントラルパーク (Fig. 3)、NYSE、NASDAQを見ることができ、感激しました。トリニティ教会も見ることができ、ジョジョの奇妙な冒険が好きな私は、この地下に、,,、と思いを馳せました。

当初は2020年のプログラムで参加をする予定で、コロナ禍が始まる直前、2020年 ASCO GU @サンフランシスコで安東先生に初めてお会いし、挨拶しましたが、コロ



Fig. 4 安東先生と宿舎1階のイタリア料理屋でNY最後の晩餐

ナ禍で参加できない長いようで早かった2年の間に安東先生が出世され准教授になっていました。私は全く変わらずで残念でありましたが、お互い医局長になっており(安東先生は前からのようですが)多くの医局関連のお話をできたのも良い思い出でした。安東先生に本当に色々助けて頂きまして、誠に感謝しております (Fig. 4)。コロナ禍の影響の中、日々の臨床も忙しく大変な中、延期を聞いた時も残念ではありましたが、アメリカ、ニューヨークの状況など考えますとそれどころではないな、と感じましたし、無事2年の時を経て参加することができ、本当にJUA, AUA, 本学など関係各所のみなさまに感謝しております。本当にありがとうございました。今後もJUA, AUAの発展に微力ながら力を尽くして参りたいと思います。